

科学の楽しさ実感

室蘭栄に北大実験教室



発行所
北海道新聞社

郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
© 北海道新聞社 2012

速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp

ご購入申し込みは
0120-464-104

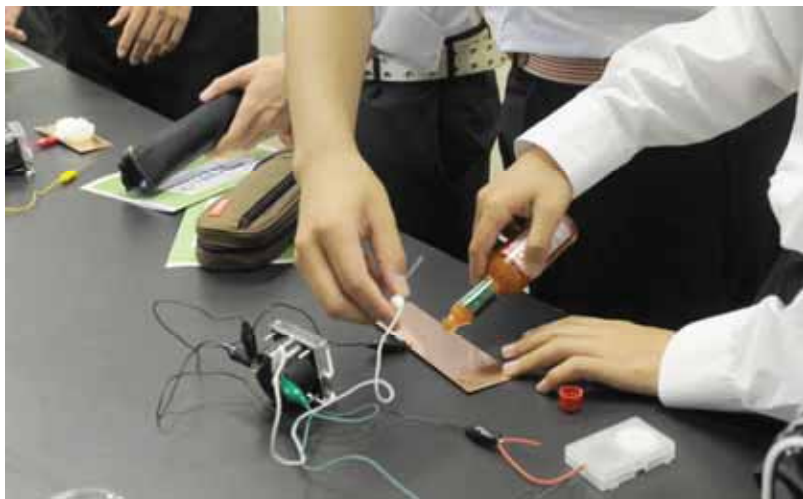
ぶんぶん号

この速報は道新ぶんぶん号で作っています。マイクロバスにデジタルカメラ、パソコン、プリンターなどを積みイベント会場で速報や号外を作る北海道新聞社の多目的取材、宣伝車です。自家発電機を積み災害現場でも号外を発行することができます。

鈴木カップリング／光通信／世界一鋭い針



北大製の説明を真剣な表情で聴く室蘭栄高生たち



銅板にタバスコを載せて電気を発生させた実験

北大の研究者や学生らが全道各地を訪れて実施する「移動理科実験教室」(北海道新聞社協賛)が20日、室蘭市東町の室蘭栄高校(安田富久一校長、710人)で開かれました。ノーベル化学賞を受賞した鈴木章北大名誉教授が発見した有機化合物の合成法「鈴木カップリング」を再現する実験などに、生徒たちは目を輝かせていました。

全道の皮切りとなる室蘭栄高校では、北大側がスライム作りや金属の不思議、光通信、世界一鋭い針作りなど八つのブースを用意しました。まず理科1年生約80人がそれぞれ興味を持ったブースに分かれ、北大学生らによる実演を真剣に見入り、実際に自分でも実験したりしました。この後、放課後には多数の1、2年生たちが詰めかけ、次々と各ブースを回って楽しみました。

移動理科実験教室は「子どもたちに科学の楽しさを肌で感じてほしい」との願いを込めて、北大の女性研究者支援室(有賀早苗室長)が中心となって2006年からスタート。今年には北海道新聞社が創刊70周年記念事業として協賛、「理科から科学へ―北大学生ととも―」と題し、小学生から高校生までを対象に道内各地で数回、開催します。



見て触れて 興味深々



設けられたブースは、タンパク質の不思議な世界を体験できる「ミッション・インープロテインズ」をはじめ、ゲル状のスライムを作り、実際に触ることができる「溶媒人間ゲルー早くゲルになりたい」、鉄やアルミなど金属の不思議を紹介する「鉄子の部屋」、ワサビやカラシで発

電する「調味料発電所イオン電解部局」、蛍光色素などを学ぶ「ホタルノヒカリ」、光通信の「レッツ光」、原子の世界を見る「世界的鋭針」、野菜や果物の秘密を探る「糖度オリンピック2012」の八つ。遊び心あふれた名称ながら、内容は科学心に満ちたものばかりだ。



**知りたいことも、伝えたいことも、
あなたと私、ここで暮らすみんなのために。**

世の中にはなんて多くの知らないことがあるんだろう。
生活の中のふとした瞬間に、そんなことを思ったりしませんか？
多くのことを学んできても、知らないことがなくなることは考えられない。
世の中には多くの出来事が日々起こり、わくわくする発見や発明もまだまだ続く。
知らないことがあるということは人が生きていることの証明なのかもしれません。
北海道新聞には伝えたいことがたくさんあります。
私たちの伝えたいことは、北海道で暮らす多くの皆さんに知ってほしいこと。
私たちの伝えたいことが皆さんの知りたいこととなる。そんな瞬間を大切に考えます。
ここで暮らすみんなのための「わかるをつくる」それが私たちの仕事です。



わかるをつくる
北海道新聞